武家勸懲記

卷之十七

内閣文庫
番號 和 34687
冊數 37（25）
函號 157 343

内閣文庫
和書 類 三四六八七 號 三七 冊 三七 函 一七 架

共廿七

武家勧懲記巻第廿七目録

松平左近将監源成照

相良遠江守藤原長武

土屋伊与守源忠利

六郷伊賀守藤原政勝

岡部隼人正藤原信政

植村右衛門佐源家貞

武家勧懲記巻廿七

一松平左近将監源忠照　従五位下　卯五十九才

内室　紋釘貫

嫡子對馬守服重 廿七　板倉内膳正聟

二男大学頭服利

三男仁右衛門尉

本国三川生国武州故左近将監成照

ノ男筑前守忠成ノ孫也此家傳ハ
御當家ノ御先祖出雲守長親ノ御末
子右京亮成之末裔タリト聞エ
家康公御祖父清康公ノ御代参州創
業ノ時分熊谷備中守カ居城攻抜之
間親盛先登ニ進テ討死セラル夫ヨ
リ以来代々ノ成功ニ依テ當領知ニ
移リ勤功ヲ励ス忠照舎弟三人有源

右衛門并伊織ト号シ御旗本ニ於テ
御書院番衆ノ列ニ入テ俵数ヲ拝領
セシカ又木工之助ト云テ甲府宰相
殿御家ニ候シ五百俵賜ル是死去其
子又六郎跡式ヲ相続ル是死去トシ
又忠照ニ男大学頭中奥衆ノ列ニ入
テ勤功ス五百俵ノ御切米ヲ拝領セ
ラル其弟仁右衛門是又御書院御番

ヲ勤ム忠照老衰タルニ依テ近年ニ
至テ隠居ノ願ヲ達シテ息對馬守ニ
家督セシメテ宴ヲ欲シ粗世儀ヲ談
セラルヽト聞ユ
居所豊後ノ府内本知二万二千石余
新地同運上山海ノ運上諸役等外ニ
一万石余有米売生払中吉年貢収納
五ツヨリ七ツ七分テ家中へ四ツ

成在江戸乍軍役扶持并ニ擡合アリ
地ニ禽獣莫柴薪多シ土地中也
家老　大田　岡本
忠照文武ヲ好マルヽトイヘ氏武道
ヲサノミ不心掛馬ヲスク或ハ哥学
ヲナシ物数寄風流ヲ専ラトセラル
ヽ行跡悠ニシテ不意改道宜シヽ故
ニ家士民間豊也

愚評録云文ヲ好ミテ武ヲ不好ト
ハ如何前ニモ論スル如ク凡文武
ハ双手ニ比シ一方欠テハ叶ヒ難
シサレトモサノミ心ヲカケナシト
吝ス然レトモスコシハタシナマ
ルヽト見ヘタリ殊ニ行跡ノ次第
ヲ考ルトキニハ是即チ文武両道
ノ将ナルヘシ文ハ表武ハ内ニス

ルト云ル心得ヲ以テノ故外ニ発
スルト発セサルトヲ見テ記スカ
馬ヲ嗜マルヽ文武門ノ要務ヘキ
ニアラス専ラ家士ヲ励マルヘシ
又詠哥ヲ好ミ物数寄風流ヲ業ト
セラルヽハ本意ナラス主将タル
人物ノ風流ヲ好ム文言今モイマ
シメ置レタリ是ヲ好メル人ハ是

必ス内證裏ヘ貪リヲナス然レハ
国家ノ乱害ト成其上將ノ好愛ス
ル支諸士庶民ニ至ルマテモ真似
ル儀ニ依テ無益ノ風流用捨有ヘ
シ然リトイヘ圧卅將取行正シク
家民能安坐シ豊カナル上ハ難ス
ヘキニアラス傳ヘ聞金森雲州雲
山ノ茶入ヲ京極高廣ノ懇望ニ應

シ三千枚ノ黄金ニ代ラル其買タ
ル人ノ行跡未賣タル人ノ営末考
ヘテ知ヘシ調ラレシ大方ノ金銀
何方ヨリ出ルト思ヘハ皆家民ノ
困窮ヨリ現ス徳用カマシク聞ユ
又賣タル人ヲヨミシト云フニハア
ラサレトモ其コロ寛永年中巳午
ノ飢饉甚騒一国ハ別シテ餓死ニ

ラヨクニヨツテ是ヲウケ伝テ家
氏ヲ扶助セラレシトナレハ家士
氏間イカテカ主恩ヲカヘリミサ
ランヤ故ニ于今連綿シテ目出タ
シ是等ノ道理ヲ以テ物数寄タラ
ヲ誠ムル事ナリ心得アルヘシ畢
竟忠照誉レノ将タリ

一相良遠江守藤原長武
従五位下
卯卅五才
内室松浦肥前守女
紋剱梅鉢
嫡子長次郎
二男宮内
三男式部
本国遠江生国武州壹岐守頼寛ノ男
左近衛佐長母ノ孫也世家傳往昔ノ
儀ハ未考長母ノ父ヲハ宮内少輔頼

定ト号ス織田羽柴両家ノ幕下ニ候
シ処々ノ成功不少秀吉薨去ノ後慶
長五年ノ逆乱ニ不意ニ凶徒ノ催促
ニ随ヒ濃州大垣ニ籠城ストイヘト
モ御当家ヘ忠義ヲ通シ秋月種
宗ト同意シ熊谷垣見ヲ殺害シテ御
人数ヲ城中ヘ引入忠義ヲ尽ス同茲
御勧賞ヲ蒙リ相続全シ　父頼寛寛文

四年閏五月七日隠居シ長武家督ス
有増如此
居所肥後ノ内永麻本知二万千石余
新地山海ノ運上課役等外ニ二万石
余ニ及フト云往昔ノ検地改其方限
ヲ不知米荒生抵民ニ悉シ年貢所納
四ツヨリ六ツマテ拝シ五ツ家中ヘ
四ツ成在江戸ノ年百石ニ付五人扶

持外ニ接合有地ニ禽獣魚菜薪等多
シ家民トモニ富貴豊ヤ土地下城本
国ノ東南海辺近シ八代ヘ十四里有
家老　蓑川九月羽田
長武文武ヲ好ミ才智発明ニシテ国
民ヲ憐レミ情フカシ馬ヲスキ鷹狩
ヲ好メリ
愚評試ニ本文ノ如ク遠ヒナクン

ハ聊カ悪儀ナシ是主将ノ法ニ叶
ヘリ許スヘキ事ナシ文頼寛善行
ノ誉レ有今長武其嗣系ヲ全フセ
ラル、事第一孝道タリ慎ニテ猶
家民ヲ憐ミ欲セラルヘシ

土屋伊与守源忠利　従五位下　卯卅一才

内室　紋三ッ目結

嫡子

本国甲斐生国武州民部少輔利直ノ
男故民部忠直ノ孫也世家傳同姓但
馬守数直ノ記ニ詳カニ書ス
居所上総ノ内久留里本知二万千石
新地開運上課役等外ニ一万石余米

売生払方吉年貢処納五ツヨリ六ツ
五六分マテ拝ミ五ツ家中ヘ四ツ成
在江戸ノ年人有扶持外ニ損合ナミ
馬飼料ヲモ与フ地ニ禽獣魚柴薪多
ミ土地中ノ上地本国ノ西海辺万事
自由叶フ

家老　春日　佐藤　小川

忠利文武ヲ学ヒ行跡悠ニミテ不肴
家民ノ仕置宜ミク豊カや病者ユヘ
世間ノ出合マレナリ

愚評識云文武両道ヲ学ヒ行跡悠
ニミテ肴ナク仕置善ナル事誠ニ
悟タル法義不過之本文ノ如クナ
ラニニ難スヘキ処ナミ最モ惜レ
ノ人ナリ案スルニ忠利ノ弟相馬
長門守ト号ミ今出羽守ノ父ナリ

是又道有人主將ノ爲量備リ器ト
有ニカ借威遠去セラル兄弟同覧
徳全ク世ノ唱ヘ善ナル支忠孝自
然ト相見ラル丶モノカ

一六郷伊賀守藤原政勝 従五位下 卯六十七才 終角内七星
内室京極安智女
嫡子佐渡守正信 四十一才
二男頼母
三男八郎兵衛
本国出羽生国常州兵庫既政乗ノ長
男也祖父末考之世家傳亦明ニ不知
故暑之舍弟同名藤右衛門ト号ス二

男三男八郎兵衛トモニ御旗本ニ於
テ御番ヲ勤ムコレモ配当ノ知アリ
ト聞ユ分量不分明
居処出羽ノ内本庄本知二万四百石
余新地開運上諸役掛物等都合五万
石ニ及フ年貢処納四ツヨリ六ツマ
テ家中ヘ四ツ在江戸ノ年百石ニ付
四人扶持外ニ撫育少シ与フ地ニ禽
獣菓柴薪多シ土地中ノ上国中ニテ
ノ上処ヤ住所国ノ西北海辺物毎自
由叶フ仕置等古故家民心易シ
家老　吉田　野田　太田
政勝文武ヲ少ク学ヒ武法ヲ用ユ心
意直ニシテ行跡悠然ト思慮フカク
家民ヲ恵ム御暇ノ後在所ヘ不行大
方江戸ニ滞留セシムト云々

愚評識云本文ノ如クナラハコレ
岑ヒノ人多リサレトモ文武ヲ学
フ程ノ暇トシテ御暇ノ後国ヘ行
ルヽ事遅滞セラルヽハ国郡ヲ預
リ領シ一向我物トノミ心得ラル
ヽニ依テ怠随ノ念ヨリ如此国ニ
取テ民間ノ盛衰安危ヲ考計リ静
謐ノ功ヲ立ント欲セラルヽハ人

主ノ嗜ミ忠義ノ第一也不義悪逆ノ
人モ一方ノ勤メハ怠ル事成難シ取
然兼法ニ背ク故ナリ然レハ又御暇
ノ後壹地滞坐ノ事モ背カサルニ
ハアラシ縦自身ノ勤候ハ少々疎
カナリ氏国家安泰ノ仕置正シキ
ヲ以テ所要ノ忠節ト不如何ナル
奸曲ノ濫レ者領方ニ徘徊セシメ

此後隙ヲ窺ヒ反逆徒黨ヲ催シ乱
静ヲ発セシモ知カタシ是等ノ義
ヲ以テ四方交替ノ時節ヲ定メテ
暇去ノ期ヲ不怠御兼法タル上ハ
一日片時モ遠ヘカカラル、ニハ
宜キニアラスサレハ此時計ニモ
アラス暇国ヲ延引セラル、人多
シトイヘトモ政道文武ヲタシナ
ム程ノ人ニハ不足ト難スル所十
リ参勤ヲ怠ルヨリハ不苦唯道理
ヲ述ルノミ云々心得有ヘキ事也

一 分部隼人正藤原信政　従五位下　卯廿七才
内室伊東出雲守女　紋九ニ三ツ引
嫡子
本国伊勢生国武州若狭守嘉高ノ養
子伊賀守嘉治ノ孫方実ハ池田修理
亮長信ノ三男也嘉高寛文七年六月
十二日卒ス十九才也有馬左衛門佐
聟タリ嗣子ナキニ依テ養父嘉治ノ

内儀ハ池田出雲守長常ノ女ヤ其由
緒ニ依テ如此足池田備中守長政ト
号ス當時火消役ヲ勤ム領五千石タ
リ粮父若狭守ノ家傳住古ノ幾ハ未
考ス慶長年中左京亮政壽ト号ス甲
州上野ニ住ス　御當家奥州御出
陣ノ時関東ヘ供奉セシメ又御下知
ニ随ヒ国ニ皈リ勢州安濃津ノ城主

冨田信濃守ニ合力シテ防戦ヲ励ム
平均ノ後御勘賞ヲ蒙リ又其後大坂
両度ノ軍忠ヲ尽ス政壽逝去伊賀守
相續ス然ルノ処ニ明暦四年六月十日
領知ニ於テ一族ノ浪人何某トカヤ
乱心ニテ喜治ヲ討伊賀守郎千其者
ヲ誅シ程経テ死ス于時卅一歳ナリ
同苗跡式若狭守ニ賜ル喜治寛文年

中死去ノ後當年人正相續ス
居城江州ノ内大溝本知二万石新地
運上諸役掛物等外ニ一万石程有之
年貢所納六ツヨリ七ツ迄押シ五ツ
半家中ヘ四ツ在江戸百石ニ付五人
扶持外ニ役介有リ地ニ禽獣魚柴薪
有土地上居処国ノ両京都ヘ通シ万
自由叶フ

家老　同氏　沢井

信政文武ヲ少々心掛行跡慎シミ有
テ悪敷ナク家民ノ仕置順ヤ未若将
タル故臣等政道ヲ執行フ
愚評ニ云世人文武ノ道理ヲ学ハ
ル、故ニ行跡順シミ有因茲悪行
ナシト見ヘタリ臣等仕置ヲ執リ
行フトイヘトモ順ナリトハ記セハ

尤モ吉シサレハ知行俸禄ヲウケテ妻子ヲ扶持シ身ヲ立ル事是君恩ノカタジケナキニヨレリト一向忠義ヲ常ニシ守護セシムルニ於テハ君臣ノ義全シ長久ヲ期スヘシ又コレニ反シ本分ヲモ却シテ恩尊ノ主人ヲ蔑如シ邪権ニツノリ士卒ニ無礼ヲナシ依怙贔屓ノ沙汰シケリ私欲ヲ恣ニナストキニハ君威薄シ自己モハツカシメヲ蒙リ先祖累功ノ名ヲケカサニ心得有ヘキ事ナリ

一植村右衛門佐 源家貞 従五位下 卯五十八才

内室 紋下三下三劔菱

嫡子万之助

二男千之助

本国三河生国武州出羽守家政ノ男

故出羽守家次ノ孫也世家傳

御當家代々ノ忠臣大将軍家康

公ノ御父清康公御横死ノ時家次未

〆新六郎トモテ御近習ニ候ヒ阿部弥
七郎討其後廣忠公ノ御代反逆人氏
目ヘ弥組討忠功ヲ遂就中
家康公参河一国ノ御時ヨリ天下御
平均ノ前迄処々ノ軍功忠節不遑記
後出羽守ト称ス遠云ノ跡目新六郎
又出羽守ト改メ是以テ暫ク勤候
又大坂夏ノ御合戦ニ城兵必死ノ掛

合ノ時御本陣ヲ守護セシムル五三
人ノ内也因茲上意不宜ク御勘
當ニ預リ當領地ヲ賜ル遠云ノ後右
衛門佐相續ス又同名土佐守ノ傳ハ
改出羽守弟ニ庄右衛門ト云シ人有
後安藤帯刀其子下ス帯刀安朝ト号
ス其息ト云々代々御番頭ヲ勤ム領
九千石タリ又右衛門佐舎弟ニ志广

守トテ有之三千石配分之御旗本ニ
候之御普請ヲ司リ之近来死去万吉
ト号ス有増如此也
居所大和ノ内高取本知二万五千石
新地迄上諸役等外ニ八千石余有リ
米売生払トモニ去年貢所納六ツヨ
リ九ツマテ拵之七ツ五六分家中ヘ
四ツ成在江戸ノ者百石ニ付五人扶

持外ニ撰合有地ニ禽獣皇柴薪有リ
土地上々城本国ノ西　京大坂ニ近
ク万事自由叶フ国家ノ仕置稠之ク
民間困窮セ之ム
家老　中谷　林
家負文武ヲ不学愚痴安昧ニ之テ行
跡不義多之寡女ヲ愛之閨門ヲ不出
公勤世間ノ参会ヲ怠士卒ニ無礼ヲ

現シ民ヲ不恵唯暗然タル人ナリ
愚評議云本文ノ如クナラハ一ツ
トシテ上将ノ本意ニアラス誠ニ
愚昧ノ人タリ公勤私用ヲ怠ル事
是色愛ノ甚シキニヨル所不及是
非如何トモ論スルニ言語ナシ粗
聞ニ此人国腹ノ長子而モ愚量ノ
息有トカヤ常愛ス妾ノ執愛ニ依

テ幼少ノ方之助ヲ嫡子ニ立ルヨ
リ初メテ諸事無量ノ不義ノ災ヲ
尽スニ終レリサレハ先祖重累忠
功ヲ家員今ノ懈怠ニカユルトモ
云ツヘシ或曰由緒有家子ナリトモ
イヘ氏愚塵ナク暇ヲ出シ又下賎
無道ノ奴原ニテモ俄ニ取立恩禄
ヲ与ヘ是勤メノ労ニモヨラス一

旦ノ愛相ヲ以テ如此然レハ近習
外様ニ至ルマテ一日安坐ノ体ニ
アラス彼是勝計不及筆紙我侭至
極畢竟天余如何有ニサレトモ敢
而此将佞奸邪曲ハナシ唯一分ノ
愚昧ニ依テ行跡ミタリナルト云
計ヤ文武ノ道理ヲ不学故私意放
増ナルモノナ是等ノ人大禄ニ坐

シ人数ヲ召仕フトテモ匹夫孤独
ニ等シク若戦国ナランニ争テ其
功ヲサヽナン臣又扶助ヲ蒙リ身ヲ
立ナカラ諫メサル事法ニ背ケリ
但シ諫メテモキカレサルカ此輩
有トイヘヒ事長キ故略之ヲ備セ
ラルヘキ者也

内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan